

共生をテーマにオペラ

東京オペラ協会 日中合作歌劇「蓬萊の国 徐福伝説」

「蓬萊の国 徐福伝説」の一場面 5日、小松電機産業内・太陽ホール



ラを通じた国際交流、一般の市民と共に楽しめるオペラをコンセプトに国内外で公演活動を行っている。最初に石多さんが同協会の活動を紹介し、さまざまな歌を披露。国内では珍しいハンガリーの民族楽器・ツィンバロン奏者の斉藤浩さん（松江市在住）と同協会メンバーとの共演もあった。その後、オリジナルオペラ「蓬萊の国 徐福伝説」のハイライトを上演。作品は、司馬遷の史記にある徐福を題材にしたもので、徐福が秦の始皇帝の命令で、不老不死の仙薬を蓬萊の国・日本に求めに来たことにヒントに、「不老不死とは何

か」「人間の幸せはどこにあるか」「自然とともにあることの喜びをなぜ忘れていったのか」など、自然と人間の共存をテーマにオペラを披露。出雲の国から全ての命が共に歩む道を指し示す作品となっていた。

公演後、「日本の縁結びから世界の縁結びへ」対立の文明から共生の文化へを題材に、石多代表と同社会長兼社長の小松昭夫さん、劇団幻影舞台座長の清原眞さんによる特別座談会も開催された。

NPO法人東京オペラ協会（石多エドワード代表）による日中合作歌劇「蓬萊の国 徐福

伝説」のハイライト公演が5日、小松電機産業株式会社・人間自然科学研究所内にある太

陽ホール（松江市乃木福寛）で開催された。東京オペラ協会は1976年に設立。オペ

ラを通じた国際交流、一般の市民と共に楽しめるオペラをコンセプトに国内外で公演活動を行っている。最初に石多さんが同協会の活動を紹介し、さまざまな歌を披露。国内では珍しいハンガリーの民族楽器・ツィンバロン奏者の斉藤浩さん（松江市在住）と同協会メンバーとの共演もあった。その後、オリジナルオペラ「蓬萊の国 徐福伝説」のハイライトを上演。作品は、司馬遷の史記にある徐福を題材にしたもので、徐福が秦の始皇帝の命令で、不老不死の仙薬を蓬萊の国・日本に求めに来たことにヒントに、「不老不死とは何

不老不死とは何かを問い掛ける
出演者



歌声乗せた演技に魅了

松江、東京オペラ協の公演

東京オペラ協会（石多エド 秦の始皇帝の命令で不老不死
ワード代表）の全国縦断コンを求める旅に出た徐福が、出
サート「こんなに空が青い」雲の地を訪ねる設定でハイラ
（文化庁支援事業）の松江公イト版が演じられた。

演が5日、小松電機産業（松 石多代表演じる徐福は自然
江市）内のホールで開かれた。豊かな出雲の地で、幸せに暮
不老不死を求める中国の徐福らす人々や森の精霊らとの出
伝説を基にしたオペラで、約会いを通して、不老不死とは
百人の観客は出演者の歌声や何かを歌声に乗せて問い掛け
出雲地域が舞台のストーリーた。公演後には小松電機産業
に魅了された。の小松昭夫会長兼社長と石多
全国縦断コンサートは全国代表、劇団幻影舞台の清原真
9カ所で開催され、松江公演主宰の特別座談会「対立の文
は3カ所目。地域性を考慮し、化から共生の文化へ」もあっ
会場ごとに公演内容を変えてた。
いる。松江公演では、かつて（高塚直人）